

科目名	公衆衛生看護学実習 (Clinical Practice in Public Health Nursing)			科目コード	306
開講学科	看護学科	選択区分	選択	単位数(時間)	3単位(135時間)
科目区分	専門科目	履修時期	4年次前期 又は後期	関連DP	看②③
担当教員	入野 了士、野村 美千江、奥田 美恵、窪田 志徳				
授業概要	実際に地区に入り、社会で生活する人々(集団)の健康の保持・増進と安寧という目的を達成するために行われている保健福祉サービスを理解するとともに、住民や関係者との対話から対象集団における健康課題を同定し、課題解決のための方策の検討・実施・評価を通して、地域保健活動を学ぶ。				
授業目標	1. 地域をアセスメントし、その特性や顕在的・潜在的な健康課題を見出すことができる。 2. 健康に影響する諸因子を理解し、対象地区の健康実態を可視化・説明できる。 3. ワークショップを企画・実施・評価できる。 4. 住民や関係者などの資源を活用したヘルスプロモーションについて説明できる。				

授業計画

内容	担当者
1. 実習場所 砥部町 2. 実習期間：公衆衛生看護学実習Ⅰ 4月15日～4月19日 公衆衛生看護学実習Ⅱ 7月29日～8月9日(学校保健見学実習は後期1日) 3. 実習展開 ○5グループに分かれ、保健センター・広田支所・地域包括支援センター、砥部町社会福祉協議会を基点として、各地区で実習する。 公衆衛生看護学実習Ⅰ ○保健福祉サービスの拠点・内容の理解 砥部町、砥部町社会福祉協議会のオリエンテーション ○担当地区の踏査 ○住民リーダー・関係者へのアプローチ 公衆衛生看護学実習Ⅱ ○住民リーダー・関係者インタビュー、地区踏査 ○地域アセスメント・健康課題の抽出 ○中間カンファレンス 実習1週目に各グループで実施 ○ワークショップ ①学生が見て聞いて捉えたこの町・この地区 ②ワークショップの企画・予行演習・実施 ○実習報告会・反省会 実習最終週に保健センターで、各地区での活動と振り返りを共有する。 ○学校保健見学実習(砥部町内の4小学校、1中学校で一日：後期に1日) 4. 関連科目での学びを活かした資料化と活用 町や保健所で既存資料の収集、図書館や公民館で地区特性の把握 統計・医療費分析・健診結果分析と資料化、地区診断の言語化 健康教育時に持参する教材や健康関連チラシ案の作成	入野了士 野村美千江 奥田美恵 窪田志徳
成績評価方法	到達度評価50%、グループ学習の成果評価50%
教科書	麻原 きよみ編「公衆衛生看護学原論(公衆衛生看護学テキスト1)」(医歯薬出版) 佐伯 和子編「公衆衛生看護技術(公衆衛生看護学テキスト2)」(医歯薬出版) 岡本 玲子編「公衆衛生看護活動Ⅰ(公衆衛生看護学テキスト3)」(医歯薬出版) 厚生労働統計協会「国民衛生の動向・厚生指標2018/2019」
参考図書等	荒賀直子・後閑容子「公衆衛生看護学 jp 第4版データ更新版」(インターメディカル) 宮内清子「保健師の基軸をつくる公衆衛生看護キーワード・ナビ」(インターメディカル)
授業時間外の学習について	実習ガイダンスや実習中の指導内容、教科書や関連科目で提示された資料等を参考にしながら、実習で感じた疑問や気づきを深めるための予習・復習を自発的に行うこと。
関連科目	地域・在宅看護学の科目群→301 公衆衛生看護概論→303 公衆衛生看護特論 →304 ヘルスプロモーション展開論、本科目→305 公衆衛生看護特論
備考	ユニフォーム(砥部町指定ポロシャツ)を購入